



< 市町村探訪 >

まちづくり活性化バス「キララちゃん」運行へ

(土浦市)

今年3月1日から土浦市内において中心市街地活性化の一環として、中心市街地への集客力・来街機能を高めるため、また中心市街地の居住・生活環境の向上と公共交通機関の利用増進を図るため、まちづくり活性化バスの試験運行が始まりました。

バス運行ルート

バス運行ルートは3コースあり、いずれもJR土浦駅西口を発着しています。

- ・ Aコース 市民会館循環コース
(一周約30分) 小型バスにて運行
土浦駅西口からモール街・旧水戸街道を経てショッピングセンター・市民会館・協同病院等を回り土浦駅に戻るルートです。
- ・ Bコース 市役所循環コース
(一周約30分) 小型バスにて運行
土浦駅西口から旧水戸街道にある土浦ましかど蔵(観光物産館など)・亀城公園前を経て市立図書館・ホームセンター・国立病院・土浦市役所を回り土浦駅に戻るルートです。



キララちゃん
左からジャンボタクシー・小型バス

- ・ Cコース 霞ヶ浦循環コース
(一周約45分) ジャンボタクシーにて運行
土浦駅西口から霞ヶ浦湖畔沿いホテル・マリナーを経て、一度土浦駅東口に戻った後、水郷体育館・ショッピングセンター・土浦市役所下を回り土浦駅に戻るルートです。

中心市街地の細い路地や、住宅団地内道路などを通行し、各ルートとも細部にわたって考えられたルートとなっています。

バス運行事業内容

運行時間は始発9:00から最終発18:20となっています。料金は1人1回の乗車につき100円(小学生50円)です。また、乗り換えて利用する場合は、1日乗車券(300円)がお得です。

さらに、バスの運行に商店街等が連携しており、協賛している店舗等で1回1000円以上の買物をした時に、当日の乗車証明券を見せると地域通貨「100キララ」がもらえ、100キララでバス1人1回乗車することができます。このことでバス運行と買物(商業)が結びつき、さらなる人々の交流が生まれます。

今回の取り組みの考え方

なぜ土浦市内でこのような取り組みが行われるようになったのでしょうか?まちづくり活性化バス運行事業を行っている「NPO法人まちづくり活性化バス土浦」の小松重雄理事長にお話を伺いました。

「土浦は昭和30年代までは商圈50万とも言われ、宇都宮とともにバス交通の要衝であり、遠くは千葉の銚子や長岡(茨城町)までバスが運行されていた。しかし、市街地の郊外化・モータリゼーションの発達によりだんだん中心市街地へ人が集まらなくなり、またバスの本数も減少していった。



そこで土浦市内の様々な団体の方々と中心市街地活性化について話し合いをもった中で、人が集うことが活性化であり、そこから土浦の魅力を考えてみると、人々に知られていない土浦の魅力がいっぱいあることに気付いた。そこで土浦の魅力を知ってもらうため、また中心市街地に来てもらうために何が出来るかを考えたときに、まず地域の人々でまちづくり（中心市街地対策）を行い、そして地域全体で利益を共有しようと考えた。その手段としてバス運行を始めた。現在、バス会社とタクシー協同組合で共同運行しており、土浦市が事業支援者になっている。商店街等も連携しており地域一体での取り組みができています。今後もバスに乗ってもらうのではなく、バスに乗りたくなる、そして街（まち）に住みたくなるようなまちづくりを行っていきたい。」

「バスの運行ルートについては、いかに人にバスに乗ってもらうかを考え、短い時間で（30分・45分コース）1周するように設定している。また観光スポット、商店街等を効率よく結んだ。“街の魅力”+“足で歩いてもらう”=“活性化”であり、人が物を動かすと考えている。今後も地域全体でまちづくりに取り組んでいく。」



NPO法人まちづくり活性化バス土浦
小松理事長です。快く取材に応えてください
ました。



バス運行ルート 旧水戸街道 まちかど蔵
付近です。

バス運行ルートにおける土浦歴史探訪

・蔵のまちの紹介

街なかには近世から近代にかけての歴史資源が数多く残っています。亀城公園（土浦城跡）や旧水戸街道周辺を歩いているとあちこちに土蔵・石蔵を見つけることができます。土浦まちかど蔵「大徳」「野村」は、歴史的財産をまちづくりに生かす試みから改修され、蔵の中には観光物産館・歴史展示館・喫茶店等があります。またこれらの場所と場所をつなぐ景観づくりも始まっています。歴史を感じられる街土浦、ぜひみなさんも街なかを歩いてみてください。



歴史の小径 正面に見えているのが
まちかど蔵「大徳」です。

